

地理：生徒の主体的な学習を通して、地域の特色を考えさせる授業

1 MAPを生かした指導の工夫

受動的な学習が多い社会の授業で、生徒が自ら進んで学習し、調べたことについて深く考察することを促すために、より効果的な学習となるようMAPの考え方を使い工夫してみた。

2 教科・単元名 地理B・地域の調査と研究

3 指導対象学年 3学年

4 単元の目標

(1) 教科としての目標

身近な地域の調査を通じて地域の変容と課題について、調べ方を身に付けるとともに、地域の将来像について考察する。

(2) MAP導入のねらい

生徒が地域の特色について自ら進んで学習し、その結果を生徒相互で共有することにより、地理の学習がより効果的になる。

5 指導に当たって

生徒の興味・関心を引きだし、意欲的に学習に取り組ませる態度を養うには体験を伴う授業が効果的と考えた。また、グループ学習を進める上で、グループの成員相互を尊重しながら学習をしていくことの大切さにも気付いてもらいたい。

6 単元の指導計画（6時間）

調査計画	1時間	調べ方の紹介と個人のテーマを考える。写真撮影（宿題）
調査の整理（本時）	1時間	写真を持ち寄って話し合い。共通のテーマを探る。
調査	1時間	共通のテーマについて調査する。
調査の整理・協議	1時間	調査してきた内容を整理し、グループで協議する。
発表	1時間	調査で分かったことをグループごとに発表し合い、話し合う。
報告書の作成	1時間	レポートの作成。

7 本時の指導

(1) 本時のねらい

生徒たちが個人のテーマに基づき撮影してきた写真を持ち寄る。それをもとにクラス全体で調査項目について話し合い、整理する。話し合う中で共通のテーマを探し出し、全体で共有する。

(2) 指導に当たって

話し合いができる形を整える。生徒たちが使い捨てカメラを使い、調べた地域がファインダー越しにはどのように写り、問題点は何なのかをクラスの仲間を紹介することによって、地域の現状と問題点を把握させたい。調査学習をするに当たり、お互いが認め合うことができる環境があるかどうかを重要視しながら支援していきたい。

(3) 授業の展開

段階	学習内容	生徒の活動
導入 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の授業についての説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の授業が撮影してきた写真に基づき話し合う時間であることを知る。 ・ 話し合う体制を整える。5名ずつのグループをつくり、全員が見えるように机をならべる。
展開 (40)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査項目についての紹介 ・ 調査内容を考える ・ 調査内容ごとにグループ分けをする ・ 問題点を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「この写真を撮ったのはどうしてなのか」各個人のテーマに基づき、1人ずつ撮ってきた写真を説明する。 〈体験〉 ・ 各生徒の説明をしっかりと聞く。 ・ それぞれの写真を見て気付いたことをメモする。 ・ 他の人の写真を見て感じたことを話し合う。 「他の人の写真を見て感じたことはないかどうか」 「みんなが撮ってきたものに共通点がないかどうか」 〈振り返り〉 ・ 各生徒が撮影してきた写真を調査内容ごとにグループ分けし、それぞれの問題点は何かクラス全体で考える。 ・ 問題が抽出される。 「環境問題について考えられるのではないか」 ・ 問題点について日常の生活上かかわりのあるところがないかどうかを考える。 ・ 調査内容ごとに4つのグループを編成し、出てきた問題点について、何を調べるのかを考える。 〈一般化〉
まとめ (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次の時間に活動する内容を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の時間で学習した中から次の授業にもっていけることを簡単にまとめる。

教師の働き掛け(MAPを導入したねらい)	MAPを生かして工夫した点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の授業が撮影してきた写真に基づき話し合う時間であることを伝える。 ・ 話し合いがしやすい人数・机の形にすることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に臨む姿勢ができているか、気持ちを授業に向けるよう働き掛ける。 (感情・身体) ・ グループのメンバー一人一人が尊重されているか。(状況)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員にわかりやすいように、できるだけ大きな声で話すように伝える。 ・ ただ聞くだけでなく、それぞれの発表を見ることも話し合いにかかわることであることを伝える。 ・ 集中して取り組むことを伝える。 (Be Here) ・ 他の人の写真を見て気付いたことをそれぞれ発表するように促す。 ・ 撮ってきた内容について、相違点・共通点を確認する。 ・ 調査内容をKJ法により整理し、課題を把握しやすいように支援する。 ・ 抽出した内容に問題点がみられないかどうか投げ掛ける。 ・ 普段の生活において自分たちがかかっているところを挙げるとすればどのようなところであるかを例を挙げさせながら、生徒の気づきを促す。 ・ 全体で話し合っ出てきた問題(環境問題)についてもう一度調べる必要性があることを投げ掛ける。 ・ お互いを尊重しながらグループで活動できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員がまとまって話し合いに参加しているか。 ・ どのように話し合いに参加しているのか。 ・ 自分の考えをどのように伝えているか。 ・ 相手の話をどのように聞いているか。 ・ グループのメンバー全員が尊重される環境があるか。 ・ どういう方向性を示そうとしているのか。 ・ 個々の意見をクラスの中で出せる雰囲気が見られるか。 ・ グループ全体の問題として受け止めているか。 ・ 全体の問題を自分の問題として受け止めているのかどうか。 ・ KJ法により調査内容をグループ分けして出来た4班で行動することで、次からの調査活動が取り組みやすくなると思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の授業で探り出した共通のテーマに基づいて次回の調査学習を行うように投げ掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般化したことを次の授業に生かす。

(4) 評価

- ・調査学習に積極的にかかわることができたか。
- ・一人一人の考えが生かされているか。
- ・他の人の意見を受け入れたり、自分の意見を言えたり、お互いが学ぶ姿勢であったか。
- ・共通のテーマを探る話し合いを、自分の問題としてとらえられたか。

8 MAPを生かした効果、まとめ、考察等

どちらかという知識を詰め込む授業に陥りがちだった社会の授業で、何とか工夫改善を図り、地理を学ぶ楽しさや学習に意欲をもたせる取組がないかどうかを考えていた。また、自らの力で必要に応じて調べたり解決できるような授業をしなければ変化する社会に対応する力が養われないことも事実である。「学ぼうとする力」を中心とした授業にするために、これからの時代は問題を解決する過程を大事にしていくことが必要であるし、それにはMAPの考え方を取り入れることが効果的と考えた。

今回の授業では、問題意識をもって調べてくることがポイントであった。「自分はこういうテーマで」と自ら課題を見付けに行くことがMAP的な考えでもある。そして、調べてきたことを全体で共有し、その内容の中から共通のテーマとして挙げられる問題を見付けるところまでを授業展開した。次の時間からは、共通のテーマについても一度調査し、協議する。そこからみえた事柄や、新たな気づきを踏まえて調査学習をまとめるという単元の指導計画の流れ自体が、体験学習サイクルが回ることに繋がっていると思われる。

MAPは一人一人を尊重するフルバリューコントラクト(FVC)の考え方が大前提としてある。特にグループ活動を中心に行う調査学習の授業では、身勝手な行動が全体の活動をうまくはかどらせないことにもつながる。活動の過程を重視することで「一人一人が大事である」「みんなで協力しなければならない」ということに気付かせるように支援する必要がある。このFVCの考え方が、実は今回の調査学習でテーマとして取り上げた内容の中でも同じことが言えるのではないかということに気付かせたかった。そこではじめて、教科のねらいとする体験学習サイクルと人間関係づくりの体験学習サイクルをリンクさせて回すことができると思われる。

今回の授業では、共通のテーマとして環境問題にスポットを当てたのだが、生徒が取り上げる個人テーマの内容によっては、違うテーマに変化することもあり得る。教師としては、常にFVCを意識する環境の中で、グループがどの方向にいきたいのかを明確にして支援することが大事であると考えている。